

## Contents

文化財の保護や活用に関する活動の一部をご紹介します！

## 葛飾区の文化財

### 遺跡の発掘



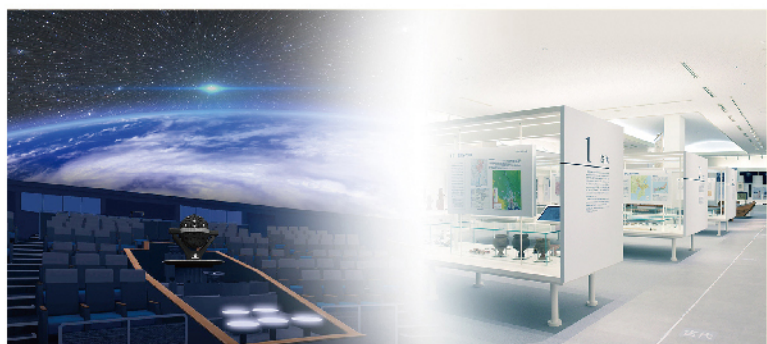
### 葛飾柴又の文化的景観



## 博物館からのメッセージ



## 博物館の体験学習事業について



### ！ 当館プラネタリウム観覧のご予約・ご来館にあたって

新型コロナウイルスの感染状況により、ご利用方法や内容を変更する場合があります。ご利用前には当館ウェブサイトで最新情報をご確認ください。▶▶



## 遺跡の発掘

遺跡とは昔の人々が暮らした住居の跡や井戸、生活に使われた土器などが地中に埋もれたものです。葛飾区内には27カ所の遺跡があります。葛飾区一帯で人が住み始めたのは古墳時代のことで、青戸、柴又、奥戸などの地区で集落遺跡が見つかっています。



発掘の様子

### 最近の葛飾区内で行われた遺跡の発掘調査をご紹介します

柴又の古録天東遺跡の調査で古墳時代や奈良時代の土器、中世の常滑陶器などが出土しました。古墳時代の土器は破片を接合して形を復元できました。

土師器と呼ばれる素焼きの土器で、食器として使われていたと考えられます。



古墳時代の土器

※白い部分は欠けていた部分に入れたせっこう石膏です。

奈良時代の土器

この土器は常陸(現在の茨城県)南部で作られたものです。須恵器と呼ばれる中で高温に焼成されました。これも食器で残っていたのは底の部分です。



どきまるくん

## 葛飾柴又の文化的景観

葛飾柴又は、地域の皆様が大切に守り、継承してきたまち並みや生活が文化財として評価され、東京都内初の重要文化的景観として国から選定されています。

葛飾区では、地元の方々とともに「葛飾柴又の文化的景観」を守りながら、柴又の魅力を発信していきます。



文化的景観の中心となる題経寺

和洋折衷の建物と和風庭園の調和がとれた山本亭



多くの観光客で賑わう参道



江戸時代から続く柴又の畑



柴又の名物である川魚を育んだ江戸川

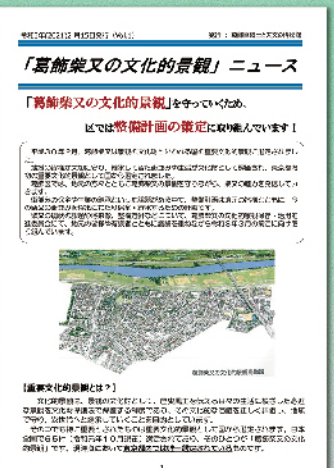


題経寺と周辺のまち並み

最新情報をチェックしよう！

「葛飾柴又の文化的景観」ニュース vol.1 を発行しました。

QRコードを読み取ると、PDFが直接開きます。



# 博物館からのメッセージ

## 1 東京低地に暮らす

令和2(2020)年11月7日、リニューアルした2階常設展示室に入ると、私たちの生活の舞台である「葛飾」を2つの番組で紹介しています。

2つの番組は「キセキ」をキーワードにしており、「水とジオ」では東京低地の地形のなりたちを、「水とヒト」では災害を乗り越えてきた人々の営みを紹介しています。6000年前の縄文海進後から河川の堆積によって陸化してきた大地の軌跡は、地震や水害などの災害をもたらしてきました。しかし人々はその度にたくましく復興を遂げて生きてきた奇跡があります。



2019年10月13日午後2時56分 東武スカイツリーラインからの荒川

## 2 災害から学ぶ

令和元(2019)年9月の房総半島台風、翌月の東日本台風は、記憶に新しく、実際に避難所に足を運ばれた区民の方も多かったと思います。気象庁によると、同じ年に発生したふたつの台風に名前がつくのは60年ぶりとのことでした。

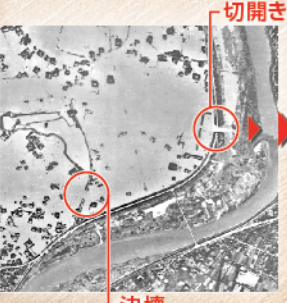
第二次世界大戦後の東京低地最大の台風被害は、昭和22(1947)年9月に発生したカスリーン台風です。葛飾区から約60km離れた埼玉県において利根川と荒川の堤防が相次いで決壊し、合流した洪水流は、中川・東京低地を南下しました。利根川の決壊地点は、16世紀の江戸時代初期に直流化した新川通と呼ばれるところで、荒川も流路を付け替えた場所が決壊しました。

9月19日午前2時45分、東京低地に押し寄せた濁流は、桜堤を決壊させました。この地点も元禄13(1700)年、江戸川に合流していた古利根川の流路を90度南に変更した新川でした。この時にできた池の跡は、やがて埋め立てられて宅地となります。そして、平成23(2011)年3月11日の東日本大震災では、この地点で液状化による建物全半壊を含む被害が発生しました。人が手を加えた堤防は、災害時に元の川筋を思い出し、大きな爪痕を残してしまうのです。



江戸川堤防切開き 昭和22年9月23日 GHQ東京撮影

江戸時代中期の天明3(1783)年、信州浅間山の噴火では、泥流が利根川から江戸川に入りしました。柴又村の人々は流れ着いた被災人馬を手厚く葬りました。この時に建立した供養碑は題経寺墓地に残されています。



GHQ撮影空中写真にみる決壊地点 昭和22年9月22日撮影

## 3 東京低地を護るもの

葛飾区郷土と天文の博物館では、関東平野の一角としての東京低地の地域特性を考える観点から、環境学講座を平成21(2009)年から平成31(2019)年まで15回行っています。平成22(2010)年第2回のテーマは、「東京低地の皆さんへ」上流の山々からの「メッセージ」でした。東京低地の安全は、上流部の土砂災害を防ぐための砂防ダムや遊水地によって守られています。

令和元年の台風19号では、江戸川河川事務所管内の中川では通常より4.2m、綾瀬川では3.6mの水位上昇がありました。それでも管内7つの排水機場がフル稼働し、東京低地は被害を免れました。そのひとつが春日部市にある庄和排水機場、別名首都圏外郭放水路です。この排水機場は、約68時間で、東京ドーム9杯分以上(約1151万m<sup>3</sup>)の水を江戸川に放流しました。さらに通常は海水が入らないように遮断している下流の行徳可動堰を開放して江戸川に水を流しました。

一方利根川では、渡良瀬遊水地など4つの調整池で過去最大の約2億5000万m<sup>3</sup>(東京ドーム200杯分)の貯水量に達しました。渡良瀬川が利根川に合流する栗橋観測所では13日午前1時から午後1時まで、氾濫危険水位の8.9mを超えました。しかし遊水地の貯水力が功を奏し、利根川から分かれる江戸川では氾濫危険水位には達しませんでした。

この台風は、首都圏では多摩川・荒川流域に被害をもたらしました。川崎市市民ミュージアムでは、収蔵品約26万点のうち23万点が被災し、現在も復旧活動が続けられています。



かつしかルールの大型 映像



水とジオの物語 ~東京低地のキセキ~



水とヒトの物語 ~災害と共生のキセキ~

## 4 博物館ができること

東日本大震災から10年経つ今もなお余震活動は活発です。葛飾に住んでいる私たちは現在暮らしている場所に人が住み続けることを前提に生活をしていると思います。しかし東京電力福島第一原子力発電所の事故で放射能に汚染された帰還困難区域では、地域のくらしそのものが失われています。博物館としてこの現実の重みは、他人事ではなく心して受け止めなければなりません。

博物館は、人・地域・資料をつないでいます。学芸員はそれぞれの専門を活かして、地域の資料を保全し、歴史を「形」としていく責務があります。

その「形」となったものの一つがリニューアルを行った常設展示室「かつしかの歴史」です。



当館常設展示室 近代「かつしかと戦争」

そこには、古代から中世・近世・近代・現代へと時代別に、地域の歴史と文化を継承する資料群が、所狭しと並んでいます。特に明治時代以降、平成に至る近現代資料群は、葛飾区域が農村から都市へ移行してきた多種多様な資料を映像アーカイブとともに展示しています。

有史以前から現在に至るまでの長い時間軸のなかで、私たちの生活舞台である東京低地を新しい視点から見つめ直してみただけなら幸いです。



親水公園を前に撮影した博物館



# 博物館の体験学習事業について

当館の農業体験事業や自然体験活動は、新型コロナウイルスの感染対策を講じて、開催可能なものから規模を縮小して実施しています。

博物館前の田んぼでもち米の栽培が体験できる「米づくり体験教室」は、人数を縮小して分散開催、茨城県つくばみらい市をフィールドに農村体験を行う、「田んぼジュニア」は博物館に実施場所を変更して、枝豆の収穫やカブトムシとのふれあい体験、脱穀・もみすり・精米体験を開催しました。

令和3年度の活動も新型コロナウイルスの感染状況を注視して、対策を講じながらもみなさんに楽しんでいただける体験学習事業を展開していけたらと思います。



「米づくり体験教室」の活動で、かかしを作っているところ。感染防止に配慮し、少人数で時間を分けて行いました。



## 葛飾区郷土と天文の博物館ご利用案内

- 開館時間** 午前9時～午後5時  
(金・土曜日は午後9時まで開館。ただし金・土曜日が祝日の場合、午後5時に閉館。入館は閉館の30分前まで)
- 休館日** 月曜日、第2・4火曜日、12月28日～31日、1月1日・4日  
(月曜祝日は開館。火曜祝日は開館し翌平日休館)
- 入館料** 大人 100円 小・中学生 50円 幼児無料  
(毎週土曜日は中学生以下無料。)
- プラネタリウム観覧料** 大人 350円 小・中学生 100円  
幼児(座席を使う場合) 50円  
(毎週土曜日は中学生以下無料。)
- 年間パスポート** 詳しくはウェブサイトをご覧ください。  
※年間パスポートの停止期間への対応については、「お知らせ」の最新情報をご覧ください。

## アクセス



- 電車** 京成電鉄「お花茶屋」駅から徒歩8分  
JR常磐線「亀有」駅から徒歩25分
- バス** ① レインボーかつしか(有71・有72系統)又は京成タウンバス(有70系統)で「白鳥わかば公園」バス停下車 徒歩3分  
(有71 金町駅南口～亀有駅南口～ウェルビアかつしか)  
(有72 亀有駅南口～ウェルビアかつしか)  
(有70 金町駅南口～亀有駅南口～ウェルビアかつしか 又は タウンバス車庫)
- ② 京成タウンバス(有57系統)で「上千葉小学校」バス停下車 徒歩5分
- ③ 京成タウンバス(有57系統)で「共栄学園」バス停下車 徒歩5分  
(有57 亀有駅南口～葛飾区役所 又は タウンバス車庫)

## 博物館だより

発行

葛飾区郷土と天文の博物館

〒125-0063 東京都葛飾区白鳥3-25-1

電話 03-3838-1101 FAX 03-5680-0849

<https://www.museum.city.katsushika.lg.jp/>



この印刷物は、印刷用の紙にリサイクルできます。